

## 特集

ライターSのおしごとレポート②

### 「自分が納得できるものを作りたい」

ひるま矯正歯科の歯科技工士・岩下貴史さんにかかいました。  
「歯科技工士の仕事とは?」

#### ◆歯科技工士の仕事は?

——一般歯科では歯医者さんが削った歯に詰めるもの(インレー)や被せるもの(クラウン)、義歯などを作るのが仕事ですが、矯正歯科では治療前後の状態を説明する時に使う歯型模型と歯を動かす治療が終わったあと歯列が元に戻るのを防ぐための保定装置(リテーナー)を作っています。

#### ◆気をつけていることは?

——期日に遅れないこと、きちんとしたものを作ることの2点ですね。歯型模型は現状を忠実に再現することに気を配り、リテーナーは患者さんが装着時に違和感を感じないように顎にフィット部分を作ることができるだけ薄くす

るなど工夫をしています。インレーやクラウンは少しでもズレがあるとまた虫歯になってしまうので正確に作ることを心掛けています。

#### ◆嬉しいことは?

——歯は、一人一人皆色が違います。色番号では表せない微妙な色や透け具合など本物の歯のように作ることで患者さんが喜んでくださるのが一番嬉しいことです。以前一般歯科で働いていましたがとにかく時間に追われていました。ただただ作ることに必死で

間に追われていました。ただただ作ることに必死でさ



自身も矯正治療を始めて、患者さんの不安な気持ちや歯が動く感動を実感し、仕事に活かせることも多いという岩下貴史さん。



とができます。これからは患者さんに喜んでもらえるものを作っていきます。質問に対し模型を使ってひとつひとつ説明する姿に、丁寧な仕事ぶりが見えました。(S)

### 形式知と暗黙知

2009年、私にとって最大のスポーツニュースはワールドベースボールクラシックにおける日本の二連覇でした。私は小中学生と丸刈りの野球小僧でしたので日本を代表する選手たちのスーパースターや勝利に興奮と感動を覚えました。

スポーツの技術は先輩や指導者に教えてもらい上達しますが、指導内容には伝わりやすいものと伝わりにくいものがあります。言葉や図などの形式で伝えることのできる伝わりやすい情報を形式知、いわゆるコツや感覚的な伝わりにくい情報を暗黙知と呼びます。トップアスリートは一般人には理解出来ないような暗黙知の蓄積から華麗な技を生み出しているのだそうです。

### ひるま矯正歯科の歯列矯正相談室

ひるま矯正歯科ホームページの質問コーナーに寄せられた投稿と回答をテーマごとに編集して紹介します。

**Q** 抜歯が必要と診断されました。抜かずに治療は無理でしょうか。

**A** 抜歯をできるだけ避けたいと考えるのは、患者さんだけでなく矯正医も同じで

歯科治療においても教科書や論文で理解できる形式知と先輩や同僚の治療を見て感じ

暗黙知は解析方法や表現方法を変換することで形式知に変換することが可能です。暗黙知を形式知化する事で技術の経時的な変化や第三者との検討が可能となり、より深い考察や改善策が見つけやすくなります。ひるま矯正歯科では治療結果をデータ化して分析し、治療の質を向上させる努力を続けています。本年もどうぞよろしく願います。

暗黙知は解析方法や表現方法を変換することで形式知に変換することが可能です。暗黙知を形式知化する事で技術の経時的な変化や第三者との検討が可能となり、より深い考察や改善策が見つけやすくなります。ひるま矯正歯科では治療結果をデータ化して分析し、治療の質を向上させる努力を続けています。本年もどうぞよろしく願います。

す。しかし日本人の不正咬合においては、非抜歯でできるケースはかなり限られているのが現実です。非抜歯治療と抜歯治療の違いを端的に言えば、非抜歯は歯列弓(放物線状の歯の並び)を膨らませる考え、抜歯は歯列弓を縮める考えです。治療後の側貌(口元)はどちらが望ましいか考えるまでもないことです。

歯は抜かないですむなら抜かないに越したことはありません。しかし、どんな歯並び咬み合せであろうが、数が多い(抜かない)方がいいという考えは間違いです。注意深く手入れをしていけば不正咬合(悪い歯並び、咬み合せ)にはならないはずという考えは妄想に過ぎません。ほとんどの不正咬合は生まれながらに

機能的で審美性に優れた歯並び、咬み合わせ、調和のとれた口元、美しい笑顔。矯正治療でこれらを手に入れるには顎の大きさと歯の数の調和がとれていなければいけません。これが矯正治療で抜歯をする最大の理由です。